

健康(ヘルシー)であんきに暮らせるまち

【福祉と健康】

生涯を通じて、誰もが健康でいきいきと暮らすことができ、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活を営むことができます。



戦略

7

誰もが健やかに暮らせる支え合いのまちづくりを進めます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



現 状

瑞穂区の高齢化率は、名古屋市と比べて高くなっています。高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみで構成される世帯、認知症の高齢者の増加が見込まれます。高齢化に伴い、身体的、体力的な理由などにより外出する機会が減っています。

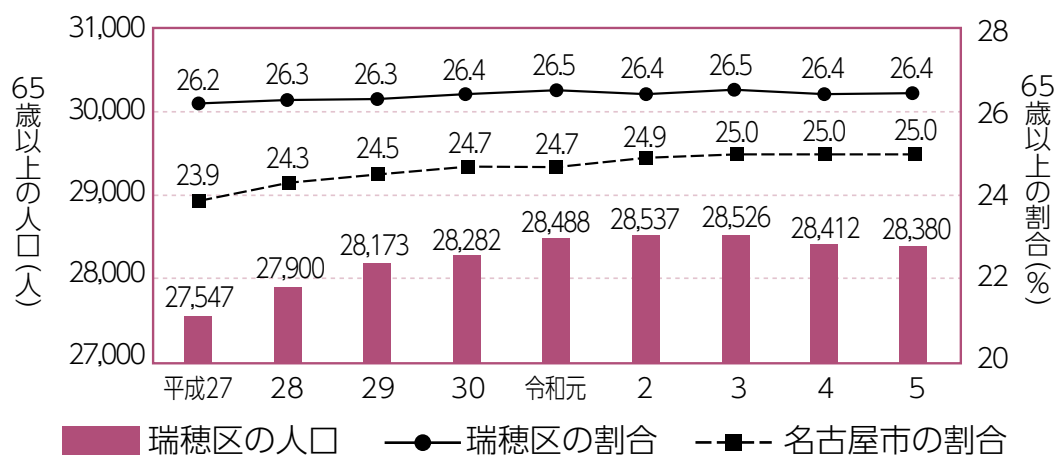
名古屋市では、平成31年4月に「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」が施行されましたが、未だ障害及び障害者に対する誤解や偏見があり、障害に対する理解が十分とは言えません。障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会（インクルーシブな社会）をめざすため、障害や障害のある人に対する理解を深める取り組みを推進していくことが求められています。

家族構造の変化と多様化により、生活課題も複雑化や複合化が進んでおり、80代の高齢者の親とひきこもり状態の50代の単身・無職の子が同居している「8050問題」等、単一の専門分野の制度利用や支援だけでは十分に生活課題に対応できないケースが増加しています。

また、以前はご近所づきあいの中で解決できたことが、近隣関係の希薄化により難しくなっています。

健康づくりについては、区内各所にて自主的なグループ活動が行われています。

■高齢化率(65歳以上人口の割合) 各年10月1日現在



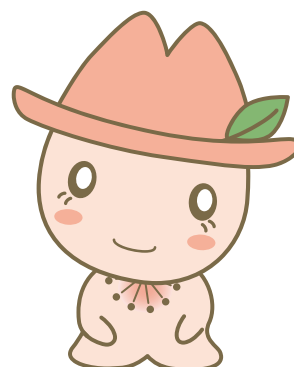
■名古屋市 平均寿命・健康寿命(令和3年)

	平均寿命	健康寿命※
男	81.36歳	80.01歳
女	87.41歳	84.51歳

※名古屋市総合計画2023において、介護保険の情報に基づく「日常生活動作が自立している期間」を指す

課 題

- ◆高齢者や障害者など誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるための体制づくりが必要である。
- ◆当事者や行政機関だけでなく、家族や地域、かかりつけ医などが理解して協力しあう必要がある。
- ◆「8050問題」をはじめ、複雑化・複合化した生活課題を抱える世帯に対して、多数の相談支援機関等が連携して支援する必要がある。
- ◆多様な障害及び障害者に対する理解が深まるよう普及・啓発が必要である。
- ◆高齢者や障害者、子育ての世帯などのちょっとした困りごとを気軽に相談できる場を増やすなど、地域で解決する取り組みが必要である。
- ◆自力で外出が難しく孤立しがちな人に対して、外出するきっかけをつくるなどの支援が必要である。
- ◆健康寿命の延伸のため、健康づくりに向けた区民の自主的な活動の継続を支援することが必要である。



施策20 人と人がつながり支え合う地域共生社会の実現をめざします

実現させるための方策

■ 包括的な相談支援 **新規・重点**

複雑化・複合化した生活課題を抱える世帯に対応するため、重層的支援体制整備事業を実施し、複数の関係機関で連携した包括的な相談支援に取り組みます。

■ 若年層に向けた認知症サポーター養成講座の開催

小・中学生など若い世代にも、認知症について理解をしてもらう取り組みを行います。

■ 地域包括ケアシステム※についての普及啓発事業の実施

地域包括ケアシステムについての理解が深められるようテーマの切り口を工夫し、市民講演会や出前講座、みずほフェスタ等を開催するとともに、広報なごや(瑞穂区版)等で積極的に広報します。

※地域包括ケアシステム：高齢者ができる限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・福祉が連携して必要とされるサービスを一体となって切れ目なく提供していく仕組み



みずほフェスタ講演会

施策21 障害を理解し、お互いに助け合う地域づくりをめざします

実現させるための方策

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の開催を契機に、障害のある人もない人もお互いに人格と個性を尊重し合いながら共に助け合っている地域づくりの一層の促進を図ります。

■ 若年層に向けた福祉教育の実施

関係機関との連携により小・中学生に対して障害及び障害者に対する理解を深めていく取り組みを行います。

■ 障害及び障害者に対する理解の普及・啓発

障害及び障害者に対する正しい理解を深められるように講演会等を開催します。



みずほっちゃ

施策22 ちょっとした困りごと支援を拡充します

実現させるための方策

■ 気軽に相談できる窓口設置の促進

地域支えあい事業の実施学区を増やすことで、高齢者等の生活上のちょっとした困りごとについて気軽に相談できる窓口の設置を促進します。

■ 学区独自の支えあいの仕組みづくりの支援

地域支えあい事業以外にも、独自の支えあいの仕組みづくりをめざす学区の支援を行います。



「地域支えあいマップ」づくり

施策23 孤立させないつながりづくりを進めます

実現させるための方策

■仲間づくりの推進

老人クラブ(なごやかクラブ瑞穂)や高齢者サロン等の活動支援を行います。

■外出できる環境づくり

移動支援など公的サービスの利用を促進するとともに、公的サービスでは対応できない外出を支援する「おでかけ応援ボランティア」活動を推進します。



なごやかクラブ瑞穂
グラウンド・ゴルフ大会

施策24 生涯を通じた健康づくりを支援します

実現させるための方策

■区民の健康づくりを支援

区民が主体的に健康づくりに取り組めるよう「健康ささえ隊」などの活動を支援します。併せて仲間づくりができるよう働きかけていきます。

■健康づくり事業・介護予防事業の実施

地域の実情に合わせた健康づくり事業・介護予防事業を関係団体や関係機関と協働しながら実施します。

■健康に関する情報の提供

特定健診や各種がん検診等の受診勧奨とともに、様々な機会をとらえて健康に関する情報を提供します。



フレイル予防教室

成果指標

指 標	現状値	目標値
瑞穂区は高齢者にとって住みやすいまちだと思う区民の割合	69.8%	75.0%
週1日以上運動・スポーツ※をする区民の割合	66.8%	75.0%

※運動・スポーツ:ウォーキング(散歩、一駅歩きなど)や階段昇降等を含む